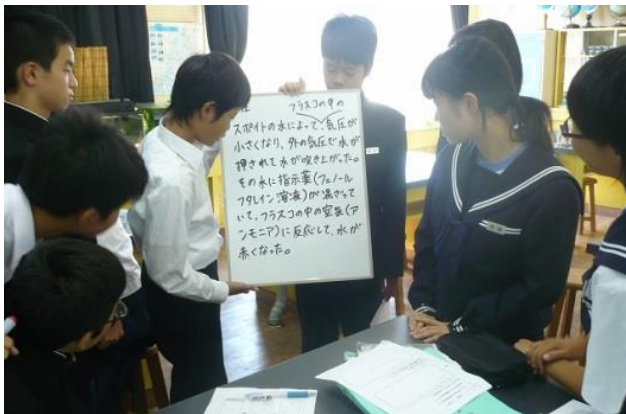


平成28年度
華西中学校授業研究会 兼 新しい学びプロジェクト授業研究会
開催要項

防府市教育委員会研究指定校

研究主題
「一人ひとりを生かす支援の工夫」

～「協調学習」の手法を用いたアクティブ・ラーニングによる思考力・表現力・判断力・コミュニケーション能力の育成～



期 日 1日目：平成28年11月4日（金）

9：40～16：30

2日目：平成28年11月5日（土）

9：00～11：50

会 場 山口県防府市立華西中学校

〒747-0835 山口県防府市西浦 545-2
TEL 0835-29-0121 FAX 0835-29-0446

平成28年度華西中学校授業研究会 兼 新しい学びプロジェクト授業研究会
開催要項

- 1 期 日 平成28年11月4日(金)・5日(土)
- 2 会 場 山口県防府市立華西中学校
〒747-0835 山口県防府市西浦 545-2
TEL 0835-29-0121 FAX 0835-29-0446
- 3 主 催 山口県防府市立華西中学校
新しい学びプロジェクト研究協議会
東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF)
- 4 共 催 防府市教育委員会
- 5 後 援 山口県教育委員会

6 日程・会場

11/4(金)

9:00	9:40	10:30	10:40	11:40	13:00	16:30
受 付	公開授業	休 憩 ・ 移 動	研 究 協 議	昼 食 ・ 休 憩 ・ 移 動	全 体 会	
	国語(2年)					
	社会(3年)					
	数学(1年)					
	理科(3年)					

(1) 公開授業 9:40~10:30

授業教室	学 級	教 科	単 元	授業者
2年1組	2年1組	国 語	関わりの中で「敬語」	松 本 眞 明
3年1組	3年1組	社 会	個人の尊重と日本国憲法	大 沢 圭一郎
1年1組	1年1組	数 学	変化と対応	竹 本 賢 之
理 科 室	3年2組	理 科	運動とエネルギー	田 浦 禎 士

(2) 研究協議 10:40~11:40

部会	会場	指導助言者
国語	2年1組教室	東京大学 C o R E F 特任助教 飯 窪 真也 様
社会	3年1組教室	岩国市立玖珂中学校 教 頭 植 野 健二郎 様
数学	1年1組教室	東京大学 C o R E F 特任助教 齊 藤 萌 木 様
理科	理 科 室	竹田市立竹田南部中学校 教 諭 堀 公彦 様

(3) 全体会 13:00~16:30

① 開会行事 (13:00~13:30)

- ・ 生徒発表 全校合唱
- ・ 主催者挨拶
- ・ 来賓挨拶

② 実践発表 (13:30~14:30)

発表内容	発表者
本校の取組について	防府市立華西中学校 教諭 竹本 賢之
萩市立大井中学校での実践について	岩国市立玖珂中学校 教頭 植野健二郎 様
大分県竹田市での実践について	竹田市立竹田南部中学校 教諭 堀 公彦 様

③ 記念講演 (14:40~16:10)

**講師 東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構(C o R E F)機構長
(元文部科学省 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部総括研究官)
東京大学 高大接続研究開発センター**

教授 しろ 水 先生

④ 閉会行事 (16:10~16:20)

⑤ 事務連絡 (16:20~16:30)

11/5(土)

(4) 「新しい学びプロジェクト」教科別研修会 (東京大学 C o R E F 主催)

8:50	9:00	9:10	10:20	10:30	11:40	11:50
受付	開会 行事	教科別部会 I	休憩	教科別部会 II	閉会 行事	

※会 場 防府市立華西中学校 体育館会議室 (人数によっては体育館フロア)

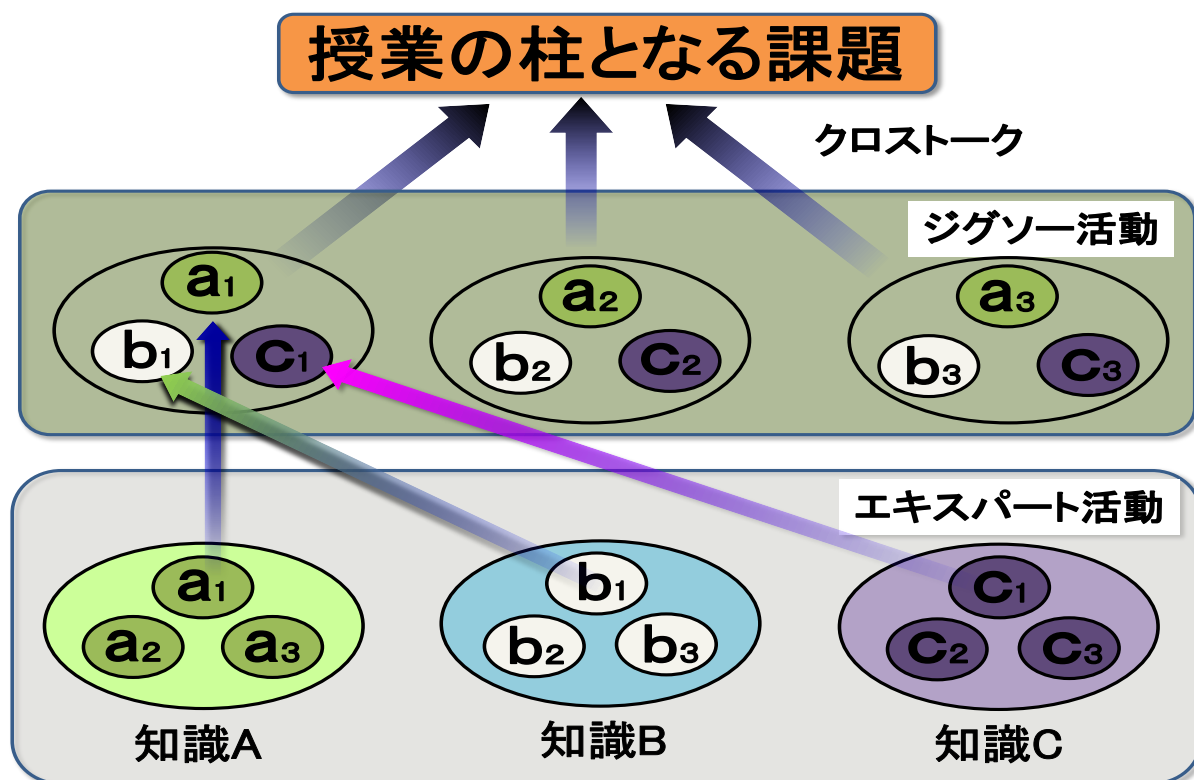
7 「協調学習」について

(1) 「協調学習の基本的な考え方」(「協調学習とは」三宅なほみ、東京大学 CoREF 河合塾編著から引用)

- 一人ひとりのわかり方は多様
- 納得して自分で表現したことは、「活用できる知識」になりやすい。
 - ・ 「活用できる知識」として知識や理解を作り上げるためには、授業の中で子ども自身が自分で考え何度も表現し直す活動を中心にする必要がある
 - ・ そのとき、自分と視点の違う他者と考えを出し合って一緒に考えれば、答えの適応範囲が広がる
 - ・ そのために、一人ひとり、わかり方の違いが「見える」授業づくりが必要

(2) 「知識構成型ジグソー法」とは・・・

生徒に課題を提示し、課題解決の手がかりとなる違う知識を与えてグループで学習し(エキスパート活動)、その後それぞれ違う知識を基に学習した生徒で新たなグループをつくり、それぞれで学習した部品を組み合わせること(ジグソー活動)によって答えを作り上げ課題にせまるという方法で行う、活動を中心にした授業デザインの手法



※ 実践例等については、東京大学 CoREF のウェブサイトを参照ください。
(<http://coref.u-tokyo.ac.jp/>)

【参考資料】

協調学習「知識構成型ジグソー法」による授業のみかた

東京大学 CoREF

Point 1

「協調学習」のねらいは、一人ひとりが自分の考えを深めていくことで、単に活発なコミュニケーションがおきることではありません。各人がそれぞれそれなりの仕方でも学習に参加し、人の考えと自分の考えを比較、統合しながら自分の考えを変えていく様子を追ってください。[このため、生徒が活動している途中で声をかけることは控えてください。]

Point 2

一人ひとりの生徒を見て、今何をどう発言しようとしているのか、あるいは今何を考えているのかを追うことが一番重要です。教師や教室を見る時は、全体として何がおきているのかを考えながら見てください。

Point 3

授業を見るとき立ち位置は、

- ・ いくつかの班を、観点を決めて観察する。
- ・ エキスパート活動、ジグソー活動ごとに、班を決めて観察する。
- ・ 授業はじめに個人を決めて、エキスパートからジグソー活動まで通して考え方の深まりやことばの使い方の変化を追う。

など観察の仕方を決めておくとその切り口での観察・理解が深まります。

【留意点】

- 生徒は、必ずしもエキスパートの内容を理解し切れなくても大丈夫です。
ジグソー班で他のエキスパート資料とつきあわせてはじめて分かったり、資料を見せ合ったりして、ここがわからないとみんなでお考え合うことから学べるものはたくさんあります。むしろ、そういう過程が起きることが大事です。
- エキスパート班で、ずっと黙っていた生徒は、全く何も学んでいなかったとは限りません。むしろ一生懸命考えていたということの方が多いためです。ジグソー班の方が話しやすいものなので、ジグソー班になったとたん堰を切ったように発言がある生徒は少なくありません。ずっと黙っていて、授業の最後の最後に重大発言をする生徒もいます。そういう一人ひとりの変化が見えてくると、授業から学べることも多くなると思っています。